

若浜の子ども



令和2年10月7日第10号

地域の方からの応援



きちんと並んで券売機で切符を買います

9月18日（金）に2年生が生活科の校外学習で、電車の乗車体験と市立図書館の見学をしました。

電車、図書館とも3密を避けるために1組と2組は別ルートで行くことにしました。そこで問題になるのが引率の大人の人数です。

今回は、いつも登校の見守りでお世話になっている若浜安全サポーターの高橋さんと太田さんから付き添っていただき、1・2組とも担任、支援員、安全サポーターさんの3名体制で行くことができました。高橋さんや太田さんは普段から、子どもたちの登校指導をしているので、列を整えて歩かせたり、駅の券売機で整列させたりはお手の物。子どもたちの指導に協力いただいた高橋さんと太田さん、担任、子ども達、みんなが笑顔で活動した半日でした。

今回の校外学習は、学校・保護者・地域が協力して学校運営を行うコミュニティ・スクールの導入に向けての試みにもなったのではないかと思います。これを手始めに、子どもたちが地域の方とのふれあいや親しみをより深めていくことができたらいいなあと思っています。

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教行法第47条の5）に基づいた仕組みです。

酒田市では令和4年度からの導入を考えています。



あいさつどうですか？

学校と母親委員会がタイアップした新規の取り組みである「マナー検定」。今年度は母親委員会の皆様から「あいさつ」を重点とした取り組みを計画していただきました。「現状はどうか？」ということで、10月1日にご家庭でカードに評価をし、その結果をオンラインで返していただいた結果が以下の通りです。（回答数 144 件）

数字をご覧いただいでわかる通り、子どもの評価よりも家族の評価の方が厳しめです。項目ごとに見ると、「2 はきはき気持ちのよいあいさつ」、「3 笑顔であいさつ」は子どもも家族も評価が低く、あいさつの質が課題になっていることがわかります。また、あいさつする相手の中では、家族に対するあいさつの評価が、最も低いというのも課題です。わたしは、身近な人に対するあいさつが基本であると思います。自分のことを一番大切にしてくれている家族へのあいさつや感謝の言葉がさわやかに、ぱっと出る子どもになってほしいと願っています。

マナー検定 10月1日オンラインアンケート結果

(数字は%)

項目	評価者	できている	努力している	できていない
1 自分からあいさつ	子ども	72.2	25.7	2.1
	家族	55.6	36.1	8.3
2 はきはき気持ちのよいあいさつ	子ども	56.3	35.4	8.3
	家族	41	51.4	4.6
3 笑顔であいさつ	子ども	45.8	43.1	11.1
	家族	41.7	47.9	10.4
4 家族へあいさつ	子ども	75.7	16	8.3
	家族	66.7	28.5	4.9
5 先生へあいさつ	子ども	80.6	17.4	7.6
	家族	75.0	22.9	2.1
6 友だちへあいさつ	子ども	75.0	17.4	7.6
	家族	70.1	24.3	5.6
7 地域の方（交通指導員さんや安全サポーターの方々など）へあいさつ	子ども	79.2	17.4	3.5
	家族	65.3	31.9	2.8

議論する道徳の授業

9月に教育実習で来ていた三浦有香さんに、授業を見せると意気込んで6年生を相手に道徳の授業をさせてもらいました。道徳の授業は、学年が進んでくると、こう答えればいいんだろうということが見えてきて、建前をなぞるような退屈な授業になってしまうことがあります。

今回は、チームの優勝とクラスで決めた選手交代の約束、親友への思い、の3点でこちらを立てればあちらが立たずといった葛藤のある授業を仕組みました。

<資料のあらすじ>

6学年男子によるサッカーのトーナメント戦の決勝戦。浩二がキャプテンを務める3組は優勝をめざして毎日放課後練習してきた。「みんな試合に出られるように」ということで、3組ではボールがフィールドの外に3回出るたびに、一人ずつ変わることになっていた。決勝戦、サッカーの得意な浩二のシュートが決まり同点になった。その後ボールがフィールドの外に出てフィールドの外で交代を待っているのは健太。健太はサッカーはあまり得意ではなかったがここまで一生懸命練習してきた浩二の親友である。「残り1分」と審判の大声が。一番大事な場面だが、チームで決めたことなので、浩二はフィールドの外に出なければならない。そのとき、キーパーの次郎が走ってきて「交代したらだめだ。いくら健太が上手になったからと言ってもキャプテンが抜けたら負けてしまう・・・」との言葉。

<児童の考え>

A 交代しないで続けて出る…23%

B 交代すべき…77%

Aを選んだ子どもの意見

- キャプテンだし、大事な場面でぬけては、チームが成り立たない。
- 「みんなで優勝しよう！」って決めたし、キャプテンが最後に出て優勝したいから。
- 1位と2位では重みが違うから。
- ラストなのに司令塔がいなくなったら困る。浩二以外の人が交代すればいい。

Bを選んだ子どもの意見

- 自分たちが決めたルールだから。 交代しないのは不公平。
- 大事なものは勝ち負けではない。
- 自分たちで決めたルールなのに、勝つためだけにルールを変えるのは良くない。
- 健太が悲しむから（親友関係が崩れていく。）

健太が一度も試合に出ていなかったら、全員Bを選んだのでしょうが、決勝戦で健太が出るのは2回目であること、ボールがフィールドの外に3回出るたびに一人ずつ代わるというルールは3組だけの内規であったということでAを選択する子も出たのです。交代する、しないにかかわらず話し合っていく中で、焦点は、ルールの遵守だけでなく、クラスでめざしていることや健太とのかかわりに向かっていきました。難しく言えば、集団の目標達成と個人の人権尊重です。

この授業の成否はともかく、いろいろな考えを持っている友達がいることはわかったのではなかったかと思います。

若っ子の活躍



酒田地区青少年読書感想文コンクール

- 特選 6年 佐藤 花凧 1年 本間 悠花
- 入選 5年 佐藤 琉玖 4年 石橋 由菜 3年 田中 彩音 2年 池田 夏穂

第47回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部ミニバスケットボール大会

女子 第3位 若浜女子ミニバスケットボールスポーツ少年団

第44回清水屋杯ミニバスケットボール大会

女子 第3位 若浜女子ミニバスケットボールスポーツ少年団

第41回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部バレーボール大会

- 優勝 若浜バレーボールスポーツ少年団

第51回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部卓球大会

- 男子団体 準優勝 若浜卓球スポーツ少年団
- カブ女子新人シングルス 第1位 3年 五十嵐 有紗
- カブ女子新人シングルス 第3位 3年 阿部 るな
- カブ男子新人シングルス 第1位 1年 渡部 恭哉
- カブ男子新人シングルス 第2位 1年 川越 陽
- カブ女子シングルス 第3位 2年 高橋 想空

第2020年度山形県卓球選手権大会

- バンビ女子シングルス 第2位 2年 高橋 想空

第45回少年少女卓球大会

- バンビ女子シングルス 第3位 1年 五十嵐 杏奈

第47回酒田シーサイドライオンズクラブ少年少女サッカー大会

- 準優勝 若浜サッカースポーツ少年団

40回酒田市川北地区野球大会

- 優勝 CJヤンキース
- 最優秀選手賞 6年 戸屋 尋夢 ○ 優秀選手賞 6年 加賀屋 壺成

新型コロナ感染防止でストップしていたスポーツ大会が再開したら、この表彰ラッシュです。指導されている方の熱意、保護者の皆様のご支援があったからこそと感謝申し上げます。